

大学のグローバル化は、事務職員のグローバル化から

国際学術交流研修

大学国際化の
キーパーソンを育成



独立行政法人日本学術振興会 (JSPS) では、
全国の大学・大学共同利用機関の職員を対象に、
世界各国で派遣型の実務研修を行う「国際学術交流研修」を実施しています。
国際交流に関する幅広い見識と高度な実務能力を有する専門職員の養成を通じて、
国内大学等の学術研究の促進につながる事業です。



JAPAN SOCIETY FOR THE PROMOTION OF SCIENCE

日本学術振興会

日本と世界の、学術をつなげ。

「国際協力員」として研修に参画し、所属機関の国際化への貢献が期待される4名の先人たち。貴重な経験を語る、生の声をご紹介します。



関西大学
国際事務局
国際連携グループ
副主査
酒井 裕美



慶應義塾
財務部
事務員
堀越 弘昭



長崎大学
原子力災害対策戦略本部
(2024年6月末時点)
林田 志保



九州大学
国際部留学課
海外留学係
小西 正太郎

様々な経験や 出会いを通じて成長を実感

所属大学で国際、研究支援のどちらも担当したことがなく、また、語学が得意でないにも関わらず参加した本研修。国内研修では二国間交流事業を担当し、英文メールの書き方から海外対応機関との連携、公募事業の基礎を学ぶとともに、研究助成機関の役割を理解することができました。海外実務研修では米国・カナダJSPS同窓会業務、会計業務や学術イベント運営の他、在米国日本国大使館や他の科学法人との協働イベントや会議等、貴重な多くの経験を積むことができました。本研修を通し、国際業務遂行に必要な基礎知識、基礎体力が身についたと感じています。また、様々な立場の人と働くことで、多様な価値観や考え方をすることもできました。そして何より、研修中に培った人脈に帰任後の業務で何度も助けていただけており、所属、立場が変われども支援して下さる方々と巡り会えたことに、心から感謝しています。

派遣先:ワシントン研究連絡センター 派遣年度:2022年度



現地学術イベントでのブース出展

海外生活と業務を通じ、 視野が広がり大学業務に還元

国内研修では、海外センターの会計書類確認や経費取扱い手続きの更新等を行いました。所属大学で経理経験があったものの、海外の商慣習や会計処理には馴染みがなく、興味深く感じました。ボンセンターでは、学術情報の翻訳や広報誌作成、他機関への事業説明などを行いました。初めての海外生活かつコロナ禍で戸惑う場面もありましたが、オンラインイベント運営や、現地対応機関との交流など貴重な経験ができました。本研修を経て、英語力の向上はもちろん、異文化や多様な価値観の理解、所属大学と異なるコミュニティでの経験を得られ、視野が広がったと実感しています。海外生活を経験し、来日した学生が感じるであろう不便さなどがわかり、所属大学で国際的な学費の決済代行サービスを導入することもできました。英語での業務を経験したい方や、所属大学と異なる環境に身を置いてみたい方はぜひ本研修への参加をお勧めします。

派遣先:ボン研究連絡センター 派遣年度:2021年度



現地対応機関との意見交換会にて

FoSシンポジウム担当で培った経験が キャリアの礎に

国内研修では、FoSシンポジウム(日本と諸外国の若手研究者が最先端科学トピックについて分野横断的な議論を行う)を担当し、参加者選考や開催準備、運営を行いました。様々な関係者との業務を通じ、JSPSの理念や研究者ニーズ、研究支援の在り方を学びました。英国では、大学での事業説明、渡英中の本学研究者訪問、本学と現地大学の協定締結式運営などを通じ、日英学術交流への理解を深めました。帰国後は、核兵器廃絶研究センター、病院、原子力災害対策戦略本部と、大学職員として比較的珍しいキャリアを重ねていますが、何度も国際イベントの運営機会があり、研修経験が大いに生かされました。今後は県庁への出向が決まっており、研修の経験は次の挑戦に繋がっています。性別や国公立問わず色々な人が参加する本研修では、新たな視点や価値観、ユニークな仲間と出会えます。参加を迷っている人は、自分と組織のために是非手を挙げて欲しいです。

派遣先:ロンドン研究連絡センター 派遣年度:2017年度



英国でのイベントにて所属大学・現地大学の担当者

国際業務の経験で 新たなキャリアが拓けた貴重な研修

国内研修では、二国間交流事業を担当し、採択前の審査から実施報告まで一連の業務を経験しました。所属大学で本事業の受託・執行を担当していたため、事業全体を知ることができ学びの多い1年でした。バンコクでは、センター所管のJSPS同窓会のうち4か国を担当し、実際に各国での同窓会サポートやタイ国内外で開催されるシンポジウムでの事業説明など、各地に足を運び多くの国際業務を経験しました。入職以降会計系の部署に在籍してきましたが、本研修をきっかけに、所属大学で国際部でのキャリアが拓かれました。現在は学生の海外派遣を担当し、アジア各地を訪問した本研修での経験を活かして、短期プログラムやイベントを企画しています。海外実務研修では、生活・業務面で文化の違いを感じながら、公私ともに日本ではできないような有意義な経験ができます。きっと今後一生忘れられない経験として、皆さんの人生にも刻まれるはずです!

派遣先:バンコク研究連絡センター 派遣年度:2023年度



JSPSインド同窓会主催シンポジウムにて(質疑応答の様子)

大学からのコメント



この研修のメリットは言語能力の獲得はもとより、現地での交流により広い視野を身につけることができる点にあり、大学に戻ってきた研修生は、国際系のみならず研究系、学生系など幅広い職種で活躍しています。ライフチェンジングな経験をもらえる他にない機会ですので、本学職員には積極的に挑戦して大学の国際化に貢献してほしいと考えています。

大学からのコメント



本学は、この研修制度について、毎年将来中軸として活躍して欲しい職員を公募選抜し、国際的な業務の素養を肌感覚で持ち合わせた人材として成長して欲しい、との期待を込めて、利用させていただいております。本研修修了後、派遣者は国際部門に限らず、多方面の部署へ配置され、培ったその素養を十分に生かし、周囲へ良い形で影響力を与え、幅広い視野を前提に期待通りの実績を積み上げています。

飛び立とう、日本の学術を支えるために。

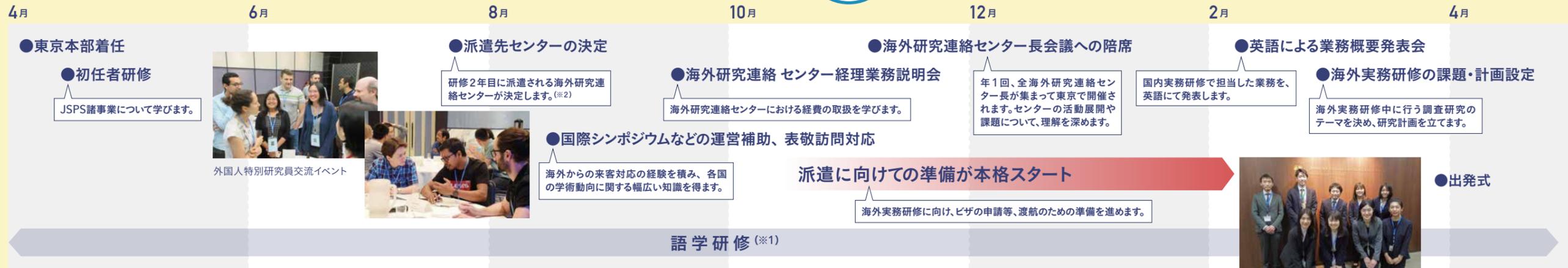
国際業務の実務能力と語学力を高めるとともに、現地での協働を通じて海外実務を肌で学ぶ2年間。研修で培った能力が、所属機関の発展や日本の学術研究促進の力となります。研修者にはキャリアアップの機会を、所属機関には専門的なリーダー人材育成の機会を提供する非常に有意義な制度です。ぜひご活用ください。

1 年目：国内実務研修

東京本部に配属され、JSPSの各種国際交流事業を担当します。

1年目の目標

- ✓ 学術の国際交流において求められる知識、ノウハウを学びます。
- ✓ JSPSの諸事業について、理解を深めます。
- ✓ 海外実務研修に必要な、国際業務の実務能力を身に付けます。
- ✓ 国際業務を行うための語学力を向上させます。^(※1)
- ✓ 海外出張、海外赴任に必要な各種手続の方法を学びます。



1年目の業務例

- ・国際シンポジウム、国際会議等の運営
- ・各種国際交流事業の申請受付、審査事務、採用者／採択プロジェクトの管理
- ・JSPSの事業で来日した外国人研究員のサポート(交流イベントの開催、日常管理、同窓会支援)
- ・海外研究連絡センターにおける経費の執行管理の補助
- ・JSPSの役員級の海外出張の随行及びそれに伴う各種準備
- ・大学の国際展開や世界の学術・高等教育政策に関連する外部シンポジウム等への参加 等

2年目の目標

- ✓ 現地対応機関、現地研究者等との協働を通じて、真の国際業務感覚を身に付け、人脈を広げます。
- ✓ JSPS諸事業や日本の大学等に関する海外への情報発信力を養います。
- ✓ 海外での商習慣を知り、海外事務所における経費の執行管理について学びます。
- ✓ 国際業務を行うための語学力に、更なる磨きをかけます。^(※1)
- ✓ 海外駐在員としての、日本からの出張者への支援業務を学びます。
- ✓ 独自のテーマに基づく調査研究(任意)を行い、海外の学術・高等教育の動向についての知識を深めます。

2 年目：海外実務研修

海外研究連絡センターのいずれかに派遣され、派遣先センターの業務に携わります。



2年目の業務例

- ・海外研究連絡センターが現地大学等と共催するシンポジウム等の企画、運営補助
- ・現地大学や学術関係機関、現地研究者に対するJSPSの事業説明
- ・海外研究連絡センターにおける会計処理
- ・海外研究連絡センターのウェブサイトの更新やニューズレターの編集
- ・現地の学術関係機関等が開催する各種イベントへの参加
- ・自ら設定したテーマについて調査し、海外実務研修報告書を作成(任意) 等

海外研究連絡センター

JSPSの海外研究連絡センターのうち、右図の8センターのいずれかのセンターに派遣されます。



※1 国際協力員自ら語学学校を選定し、語学学校で講座を受講する経費を、JSPSが負担します。(1年目(国内実務研修時)は年間20万円まで。2年目(海外実務研修時)は年間40万円まで。)
 ※2 所属機関、国際協力員本人の希望等を踏まえて決定します。(受入可能数の関係で、必ずしも希望するセンターにならないことがあります。)
 ※3 過去の国際協力員の報告書はJSPS公式ウェブサイト(https://www.jspo.go.jp/j-overseas/kenshu.html)にてご覧いただけます。
 ※4 海外実務研修後、国際協力員所属機関とJSPSとが合意した場合は、1年間さらに高度な実務研修を実施することができます。

所属機関で活躍!

Application Information

経費について

研修期間中のJSPSと国際協力員所属機関との経費分担は、以下のとおりです。

JSPSの負担分

①1年目(国内実務研修)

- ・語学研修費用(年20万円まで)

※JSPSは宿舎を保有していません。

②2年目(海外実務研修)

- ・海外研究連絡センター派遣時の、JSPS東京本部から派遣先センターまでの旅費
 - ・滞在中の在勤手当、住居手当、海外旅行保険料、ビザ申請料等
 - ・語学研修費用(年40万円まで)
 - ・海外実務研修終了時の、派遣先センターからJSPS東京本部までの帰国旅費
 - ・JSPS東京本部から国際協力員所属機関までの旅費
- ※家族同伴の場合、JSPSでは家族分の経費支給は致しません。

国際協力員所属機関の負担分

- ・国内実務研修開始時の、国際協力員所属機関からJSPS東京本部までの旅費
- ・研修中(2年間)の給与

募集について

人数

若干名

※採用実績:2023年度(10名)、2024年度(13名)

スケジュール

10月頃

各大学等人事担当へ公募通知

12月頃

申込締切

翌年

1月頃

選考

(JSPS東京本部にて、候補者との面接と英語レベルチェックを行います。)

1月末~2月上旬頃

採用者を決定、所属機関へ通知

研修に関するお問い合わせはこちら

独立行政法人 日本学術振興会

国際事業部 国際企画課 国際情報係

〒102-0083 東京都千代田区麹町 5-3-1 麹町ビジネスセンタービル 5F

TEL : 03-3263-1792 Email : overseas-o@jps.go.jp

URL : <https://www.jps.go.jp/j-overseas/kenshu.html>

